

江戸川区立
東小岩小学校
学校だより

3月号



長いトンネルを抜けて

校長 牧岡 優美子

四季が巡り、春がやってきました。連日「6年生を送る会」「卒業を祝う会」「街角ギャラリー」など、卒業する6年生をお祝いする行事が続いています。

今年度の5月、新型コロナウイルス感染症はやっと5類になりました。長かったコロナ禍で制限されていた教育活動が、少しずつ実施可能になり、子どもたちも前のようにくっついて遊べるようになりました。最近では「3密」が何だっ



たかとクイズの問題になるくらい、前の出来事になってきました。やっと、長いトンネルを抜けたような気がします。

この機会にコロナの前にただ戻すのではなく、見直し、改善、刷新も意識してアフターコロナに適した教育活動を整えてきました。また、気候変動によって熱中症対策が春先から必要になり、時期を変更する学校行事もありました。

これまで中止していた異学年交流の「なかよし班活動」も、久し振りに復活しました。しかし6年生は以前のことを覚えていないので、どうやって下学年をまとめて進行するのかに迷います。そこで慣例にとらわれず、自分たちも楽しめる無理のないやり方を見つけてきました。毎月の経験を積んで、6年生は立派なリーダーに成長しました。

コロナ前後で大きく変わったのが、1人1台のタブレット端末です。今では誰もが学用品の1つとして使用しており、1年生も撮影記録やプログラミング学習をどんどん行っています。これからの時代を生きていく子どもたちには、不可欠な力です。高校では「情報」という教科があり、全員必修でプログラミングを学習します。ちなみにスウェーデンの高校では今年の秋から「AI (人工知能)」という新教科もできるそうで、いよいよ日常生活に必要な知識・技能になるようです。未来を見据えて、子どもたちに必要な力を付けていくことが、ますます大切になります。

さて今年度も、先月末から「街角ギャラリー：地域とコラボレーション」として、6年生の卒業記念作品「心の中の美術館」を昭和通り商店街のお店に飾っていただいています。地域の皆さまのご協力のおかげで、卒業の良い記念になります。お店に飾られた6年生の作品を、たくさんの方に見ていただきたいと思ひます。



最後になりますが、今年度、本校の様々な教育活動に多大なご支援・ご協力を賜りました保護者、地域、学校関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。